

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	浦 丈彦
主な担当科目	室内楽Ⅱ②
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	個々の成長度に合わせながら急ぐことなく指導する。学生が単なる受け身ではなく、自分の意見を持って音楽に取り組むことができるように、学生の声に耳を傾ける。
2022年の教育に関する自己評価	急がずゆったりと指導できたと思うが、専門的な分野の視点では、もっと厳しく引っ張っていく指導も大事であると考えている。
2022年のFD活動に関する自己評価	実技よりも座学の授業でももう少し分かりやすくプレゼンテーションできなければ、そして話の内容の要点を上手くまとめて、学生にわかりやすい内容の充実を考えなければといった反省点がある。
授業改善のために取り入れた研修内容	座学においても実技においても、専門分野の知識をアップロードするため、多くの方の話を聞いて取り入れるようにしている。

科目名－クラス名

室内楽Ⅱ②

木管C

曜日時限

木 3時限

担当教員

浦 丈彦

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	
演習	4～	通年	2	評価割合	50	0	0	50	0	100

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。なお、グループ編成は学年を超えて自由に組んでよい。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。①で修得した技術や知識を活かし、さらに協調性のあるアンサンブル能力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
第2回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第3回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第4回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第5回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第6回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第7回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第8回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第9回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第10回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第11回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第12回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第13回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第14回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第15回	室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ）
第16回	室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第17回	室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第18回	室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第19回	室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第20回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第21回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第22回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第23回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第24回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第25回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第26回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第27回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第28回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第29回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第30回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ）

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
前期と後期の最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

教科書・参考書

なし

科目名－クラス名

室内楽Ⅱ②

木管K

曜日時限

月 3時限

担当教員

浦 丈彦

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	4～	通年	2		50	0	0	50	0	100

教育到達目標と概要

室内楽は演奏しても鑑賞しても楽しいものだが、個々のパートの完成度には高度なものが要求される。小編成のアンサンブルを数多く経験することで、各自の音楽上の係わりかた、ハーモニーの捉え方、様式感などを理解する。この授業では学生が主体的にグループを編成し、各グループ単位で授業を進める。なお、グループ編成は学年を超えて自由に組んでよい。室内楽作品を演奏することの喜びをぜひ体験してもらいたい。

学修成果

小編成アンサンブルにおける、各自の音楽上の係わりかたが理解できる。ハーモニーの捉え方、様式感などが理解できる。①で修得した技術や知識を活かし、さらに協調性のあるアンサンブル能力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導
第2回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第3回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第4回	室内楽作品1のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第5回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第6回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第7回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第8回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第9回	室内楽作品2のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第10回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第11回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第12回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第13回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第14回	室内楽作品3のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第15回	室内楽作品のアンサンブル演奏指導（前期内容のまとめ）
第16回	室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第17回	室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第18回	室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第19回	室内楽作品4のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第20回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第21回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第22回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第23回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第24回	室内楽作品5のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第25回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（前回までと時代や作曲家の異なる作品を用いる）
第26回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開1－演奏技術・アンサンブル能力を養う）
第27回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開2－作品の完成度を高める）
第28回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開3－作品のまとめ）
第29回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（上記の展開4－より高度な表現を目指す）
第30回	室内楽作品6のアンサンブル演奏指導（後期内容のまとめ）

履修上の注意

特になし

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な事前練習と楽曲についての知識を得ておくこと(60分)。
前期と後期の最終授業日にグループごとにフィードバックを行う。

教科書・参考書

なし

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2525 教員名：浦 丈彦

1) 評価結果に対する所見

まずはアンケートの呼びかけをより一層求めて多くの意見を聞くことから改善したいと感じました。

2) 要望への対応・改善方策

音楽活動研究にて、動画視聴が多すぎて不満との意見がありまして、これに関して他にも多くの回答していない学生にも同じ不満があるかもしれないとの想定で、違った授業のやり方を考え、改善していきたいと思います。

器楽は、少ない回答の中に時間通り、所定回数通りに行われていないとの回答がありましたが、受け持ち人数から去年は会議のある火曜木曜日にレッスンの設定をしていましたが、今年度はそこは改善しましたので減ると思っております。

3) 今後の課題

音楽活動研究にて、指摘前から自分自身も授業内容に大きな改善すべき点があると感じていたため、もう少しいろんな先生のご意見を参考に変わっていきたく思います。

器楽に関しては、アンケートの前に学生とコミュニケーションをとって、レッスンの最善の方向を考えたいと思います。

以 上